

【第三種郵便物認可】

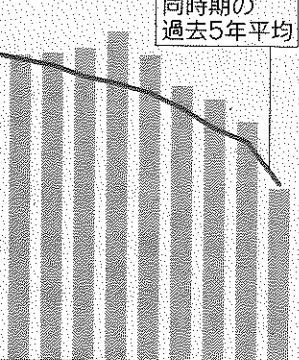
感染性胃腸炎 子ども増加

ノロウイルスなどによる感染性胃腸炎の感染者数が例年を上回る水準で報告されている。子どもを中心とする集団感染が各地で確認され、増加の背景として新型コロナウイルス対策で普及したアルコール消毒が効かないことなどの見方がある。専門家はせっけん流水による基本的な手洗いの徹底を訴えている。

宮城県多賀城市では今夏、市内の幼稚園など2施設で子どもと職員計57人が下痢や嘔吐(おうと)などの症状を訴えた。最終的に11人がノロウイルスに感染していると判明した。

ウイルスを含みやすい吐しゃ物は2倍ほど飛散するとされる。仙台保健福祉事務所(同県塩釜市)の保健師、梁場玲子さん

胃腸炎の感染報告者数 (2022年)



同時期の過去5年平均

は感染が広がった理由として「ペーパータオルで拭き取る範囲が局所的だ

ノロウイルス、アルコール消毒効かず せっけん手洗い徹底を



感染症対策として手を洗う園児 (東京都江戸川区の「かさい発みらい行きほいくえん」)

ったり、ノロウイルスに有効な次亜塩素酸ナトリウムによる殺菌が不十分だったことが考えられる」と話した。

ノロウイルスを含む子どもの感染性胃腸炎は例年より多い傾向にある。全国約3000カ所の小児科の医療機関から報告を受けた国立感染症研究所の集計によると、5月下旬から8週連続で過去5年間の平均を上回った。7月11～17日は1万3086人で、過去5年の平均と比べて約1000人多い水準だった。7月18～24日は9446人で

しか対応することができない。厚生労働省によると、ノロウイルスは特に11月～2月の冬にかけて流行する。今年の1～2月にも過去5年の平均を上回る感染者が確認されたが、今夏に再び増えている。背景にあるとみられるのは、コロナ対策のアルコール消毒の普及だ。ノロウイルスにはアルコール消毒が効かない。かず

えキッズクリニック(東京・渋谷)の川上一恵院長は「コロナ対策で消毒という意識が強まり、他の感染症対策が不十分になっている可能性がある」と指摘する。

ノロウイルス対策では、せっけん流水での手洗いといった基本的な予防が重要になる。「ちゃんと洗ってね」「はーい」。東京都江戸川区の「かさい発みらい行きほいくえん」では、子どもたちが30秒ほど時間をかけ、せっけんを使い指の間や手の甲などを丁寧に洗っていた。同園では、コロナ対策に加えてノロウイルスなどの対策にも不可欠な手洗いの大切さを教える紙芝居や絵本などを読み聞かせている。馬場与志子園長は「子どもが下痢や嘔吐したときの適切な処理も欠かせない」と語る。(勝見莉於)

8月18日日経新聞朝刊より